「おおきなおへや」感覚統合遊具で遊ぶ。床は衝撃吸収性能を付加したフローリングを敷いた。梯子の上は「かくれが」コーナー※

あつまれキセキのかけら

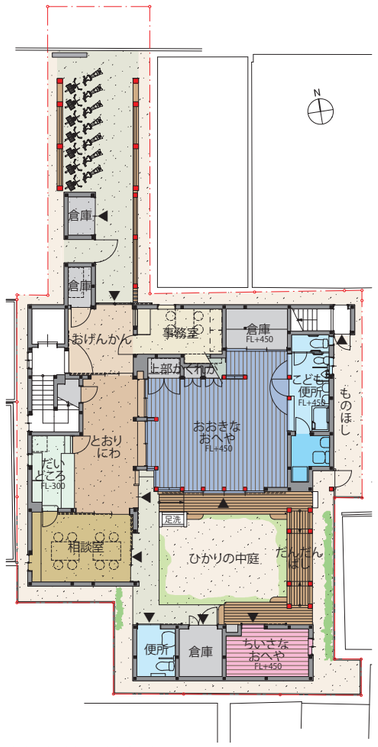
子どもゆうゆう広場　みらくるちっぷ ｜ 設計・監理：ちびっこ計画・大塚謙太郎一級建築士事務所

低層木造密集地の旗竿敷地に、1 階を児童デイサービス、2 階をグループホームとし、事業主のたっての希望で、燃えしろ設計を用いた木造準耐火建築物として合築した。

敷地は四周を隣家に囲まれ、閉塞感があったので、玄関の延長を「とおりにわ」として「ひかりの中庭」と連続させて抜けをつくった。また、木造の弱点である遮音性を補うため、2 階床と 1 階天井裏を、強化石膏ボードなどを用いた遮音構造床としたほか、建物の色数を減らす、換気扇の擦過音対策、案内手すり、床の衝撃吸収、「かくれが」空間、多様な触感の床材、感覚統合遊具の懸架、離れの小部屋、空間の明暗、場の高低、素材の硬軟など、さまざまな個性を持つこどもたちに快適に使ってもらえるよう工夫した。

こどもたちは、私たちの期待通りの使い方と同時に、私たちの期待以上の使い方もしてくれた。安全、効率、コスト、機能など、有限性の総合体である建築が、彼らの無限性にどこまで寄り添えるのか。無限の成長を、有限がどこまで応援できるのか。大人たちの思いが込められた建物は、「みらくるちっぷ」と名付けられた。「ちっぷ」とは韓国語で「家」。奇跡のかけらたちと、奇跡を忘れたことのない大人たちが集まる家。　（大塚謙太郎）

四方を住宅に囲まれた旗竿敷地に、光と風を取り込む中庭※



平面図兼配置図　赤色部は燃えしろ設計の柱を示す

「とおりにわ」さまざまな触感の材料を使うという考えのもと、この床は豆砂利洗い出しとなった。夏はひんやりして気持ちが良く、こどもたちは裸足のままで駆け回る。左は、大人もこどもも使いやすい対面式キッチン

「ちょっと、見といてや〜。」

「待っといてや、電気点けたげるからな。」

「あっかんべ〜。」

収納上の「かくれが」から、格子越しに「おおきなおへや」が見える

所在地	大阪市生野区田島 1-13-3
建築主	特定非営利活動法人 出発のなかまの会
用途	児童発達支援・放課後等デイサービス
設計担当	大塚謙太郎、岡本典子、関口卓也
施工	かわもと建設
構造・規模	W造　地上 2 階（の 1 階部分）
敷地面積	517.52㎡
延床面積	309.76㎡（のうち 143.93㎡）
竣工	2012 年 3 月
撮影	桑島写真スタジオ（※のみ）
備考	構造設計監理：I・O 建築構造研究所 設備設計監理：六甲設計 積算：藤本建築積算事務所